

令和8年3月2日

園長 佐藤 幸子

令和8年度 港区立麻布幼稚園経営計画

— おもしろそう もっとやりたい たのしいね —

1 教育理念(生きる力の基礎を育む幼稚園)

公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通した質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者と共に子どもを育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同（働）する幼稚園

幼稚園教育は環境をとおして行う教育です。幼稚園教育要領解説には「環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て環境へのふさわしい関わり方を身に付けていくことを意図した教育」とあります。幼稚園では、一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

文部科学省の論点整理の中には次期幼稚園教育要領に向けて基本的な考え方が示されています。生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の作り手を「みんな」で育むための幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において3つの方向性も示されています。地域の公立幼稚園として、子どもたちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで見られるようになる具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子どもたちの「育ちと学び」をつなげる「架け橋期の教育」を実践していきます。公立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、港区の公私立幼児教育施設の教育の質向上、小学校以降の教育との連携・接続へ貢献するセンター的役割と実践を行います。

2 麻布幼稚園の教育目標

げんきな子

やさしい子

かんがえる子

教育目標は、麻布幼稚園に通う幼児を、3年間でどのような幼児に育てていくのかを目標として示したものです。これら3つの目標に向かい、幼児の遊びや生活を通じて一体的に育てていきます。

遊びや生活の中で、様々な「人・物・こと」に出会い、気づき、考え、自分で決めて行動する幼児を育てる教育を進めてまいります。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の視点から幼児の育ちゆく方向を見据え、港区が推進する真の国際人の育成の基礎となる幼児教育を実践してまいります。

3 幼稚園経営の方針

今年度は、保育室を既存棟に横並びに配置し、「おもしろそう もっとやりたい たのしいね」と幼児一人ひとりが興味・関心をもって始めたことが、友達とつながり、広がり、深まっていくようにしていきます。

○全ての幼児を、教職員全員で温かく見取り、支え、育てていきます。

○幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。

○教職員が互いのよさを認め、生かし、高め合い資質向上を目指します。

○幼児の育ちゆく方向を意識し、その時期にふさわしい経験が積み重ねられるようにします。

○小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として「架け橋期の教育」を推進します。

(1) つながる ひろがる ふかまる 幼児・保護者・教職員像

つながる ひろがる ふかまる幼児像

- ① 自分のことは自分で行い、できたことを喜ぶ幼児
- ② 早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチの習慣を身に付け、自分の健康に関心をもつ幼児
- ③ 全身を使って遊び、体を動かすことが大好きな幼児
- ④ 危ないことが分かり、安全に行動する子ども
- ⑤ 興味・関心をもったことに自分から関り、試行錯誤しながらやり遂げる幼児
- ⑥ 好奇心・探究心をもち、自分なりに考え、おもしろがる幼児
- ⑦ 伝えあい、友達と一緒に力を合わせてよりよくしようとする幼児
- ⑧ 絵本や物語を楽しみ、自由な発想でイメージ豊かな幼児
- ⑨ 人と関わる心地よさや喜びを味わい、相手の思いに気付ける幼児
- ⑩ してよいこと、してはいけないことが分かり、考えて行動する幼児

つながる ひろがる ふかまる 保護者像

- ① 幼児の楽しんでいることに心を寄せ、一緒におもしろがる保護者
- ② 幼児の力を信じ、任せて見守り、支える保護者
- ③ 幼稚園の幼児の成長をともに喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に積極的に関わり地域とつながる保護者

つながる ひろがる ふかまる教職員像

- ① 幼児、保護者に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ② 幼稚園全体の幼児を、教職員全員で育てる意識をもち、協働する教職員
- ③ 相手の状況、思いに気付き、受け止め、考え、行動できる教職員
- ④ 自らの働き方に改善を図り、心身共に健康で、明るく笑顔であたたかい教職員
- ⑤ 自分の好きなこと、得意なことに力を発揮し、改善・工夫をする教職員
- ⑥ 向上心をもち、研修、修養に努め、学びを伝え合い、高め合う教職員
- ⑦ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ⑧ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員

4 経営の重点

中期的目標

- (1)幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、幼児が育っていく方向を意識し、遊びと生活の充実を保障し、教育目標の達成をめざした教育活動を推進します。
- (2)教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針、働き方改革を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力、学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体で幼児を育てる教職員集団を形成します。
- (3)麻布学校運営協議会を推進し、麻布小学校・地域との密接な連携を図り、地域の環境を生かした教育を実践し、地域とともにある幼稚園教育を進めます。
- (4)地域の公私立幼稚園・保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、教育の質の向上にリーダー的役割を果たし、「港区版 架け橋期のカリキュラム」を基に小・中学校との交流、連携を推進します。

5 令和8年度の重点

〈3学級の保育室が並び、豊かな体験ができるようにしていきます〉

○ 「つながる ひろがる ふかまる」教育の推進

- ① 遊びや生活をとおして、互いに見合うことで、刺激を受け、興味・関心が広がり遊びや生活が充実していくようになります。
- ② 異年齢の自然な関わりをとおして相手の思いに気付き、思いやりの心を育みます。
- ③ 様々な人と関わり、思いやりの心や規範意識を育み、人権尊重の精神の基礎を培います。また、教職員一丸となっていじめは絶対に許さないという意識をもち、いじめに類する事案の未然防止、早期発見、早期対応に努めます。

- ④ 保育者の目が行き届き、安心して安全な生活ができるようにしていきます。
- ⑤ 互いの保育を見合うことで、幼児理解の視座を広げ、環境や援助を工夫し、好奇心・探究心をもち考え、学びが深まるようにしていきます。
- ⑥ プレイルーム、教材教具の活用をはじめとした環境の活用を通して、幼児の豊かな経験と育ちを支えます。

〈幼稚園の遊びや生活を通して育んでいきます〉

○ 「健康な心と体を育む」教育の推進

- ① 早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチの習慣を身に付け、自分の健康に関心をもてるようにします。
- ② 全身を使って遊び、思い切り体を動かすことの心地よさや、様々な体の使い方を知り、自分の力で行動し、やり遂げる満足感、達成感や充実感を味わえるようにします。
- ③ 好奇心・探究心を持ち、試したり考えたりしながら、環境に積極的に関わるおもしろさが味わえるようにします。
- ④好きなこと、得意なことをとおして自信をもち自己肯定感が高まるようにしていきます。

○ 「真の国際人の基礎を育む」教育の推進

- ① 日本の文化や伝統的な行事をとおして日本の文化に親しみをもち大切にすることを育みます。
- ② 多様な人と関わりを通し、興味や関心を高め、違いを認め合い相手と協同する素地を育てます。
- ③ 日本語の美しさや楽しさを経験し、言葉に対する感覚を豊かにしていきます。
- ④ 英語などの外国の言葉に日常的に触れたり使ったりし、親しんでいきます。

○ 「ICT 機器を活用した学びの充実」教育の推進

- ① 幼児の発達や興味・関心などの実態に合わせて教師とともに ICT 機器の活用を進める。
- ② 幼児が将来、ICT 機器を有効に活用するために必要な力や情報モラルを、教職員、保護者が学び共有する機会を設けます。

〈具体的な主な取組〉

「挨拶」「身支度」「片付け」など自分のことを自分でする

- ・相手の顔を見て話す、聞く、返事をする大切さを知らせ、身に付くようにしていきます。
- ・自分の荷物を持つ、身支度、片付けなど、自分のことは自分でする習慣を身に付けます。
- ・毎日同じことをすることで、見通しをもてるようにしていきます。
- ・幼児にとって大切なことを家庭と共有し、共に育てます。

「毎日の戸外遊び」「徒歩遠足④⑤」「タグラグビーで遊ぼう⑤」

- ・毎日の遊びに、「戸外遊び」を積極的に継続して取り入れ、体を動かす心地よさを味わいます。
- ・運動的な遊びの中で様々な動きを経験させ、心と体の発達を促します。
- ・ルールのある遊びの面白さを感じ、繰り返し取り組む中で自分の力を発揮する心地よさを味わいます。
- ・心と体を十分に働かせ、粘り強く取り組む姿勢、逞しさを育てていきます。
- ・心と体を十分に動かす遊びを通して、安全に対する構えや身のこなしを身に付けていきます。

「好奇心」「探究心」「とうきょうすくわくプログラムの活用」

- ・幼稚園の豊かな自然環境の中で「何だろう」「不思議だな」「おもしろい」を豊かに感じ、探求する心を大切に育みます。

「七夕」「もちつき」「節分」「ひな祭り」「お茶会④⑤」

- ・伝統的な行事や日本の文化を積極的に教育活動に取り入れ体験し、親しみが持てるようにし、大切に育心育てます。

「絵本や物語」

- ・絵本やお話を通して日本語のもつ言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉に対する感覚を豊かにしていきます。
- ・日頃の読み聞かせを楽しみながら、絵本の世界を楽しみ、想像力を育みます。

「親子論語の会」「礼法教室」

- ・日本の文化について知るとともに講師の先生とのやり取りをとおして規範意識や思いやりの気持ちを育みます。
- ・日本の作法を知り、「背筋を伸ばす」「相手のことを考える」など心地よい生活ができるようにします。
- ・場や相手に応じた挨拶を経験し、自分から挨拶をする習慣となるようにしていきます。

「わくわくタイム」「幼稚園NT(ネイティブティーチャー)」

- ・「港区国際理解プログラム」に基づき、幼児期から中学校までつながる教育の土台を育みます。
- ・外国人保護者に母国の言葉や文化について紹介をしてもらう機会を通して、幼児が多様な人や国、文化に触れ互いを尊重する素地を育んでいきます。
- ・幼稚園NT(ネイティブティーチャー)との日常の関りや英語による絵本の読み聞かせ、歌遊び等を行い、英語や英語を話す人と関わる素地を育んでいきます。
- ・幼児が遊びや生活の中で、教師とともにマイクロスコープや ICT 機器器、タブレットなどを活用しながら、使い方を知らせるとともに、好奇心・探求心を育みます。

6 教師の指導力向上

① 園内研究テーマ

「心も体もたくましい幼児を育てるー運動遊びの援助の工夫をとおしてー」

- ・実践事例の検討、研究保育の実施、大学教授講師を招聘した研究会の実施をします。
- ・「とうきょうすくわくプログラム」を併せて実践し、年度末に実践報告をします。

② 六本木アカデミーの実施(年間3回)

- ・六本木中学校、南山小学校・幼稚園、麻布小学校・幼稚園、東町小学校と合同で、研究授業・協議会を実施し、教員間の交流、互いの校種の教育についての理解を深め、連携・接続を推進します。

③ 保幼小合同研修会の実施

- ・「港区版 架け橋期カリキュラム」を基に、麻布小学校と連携し、麻布小学校学区内の公私立幼稚園・保育園を招いた研究保育・授業と連絡会を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、架け橋期の教育の実践につなげます。

④ その他の研究・研修

- ・区立幼稚園の全教員が、テーマごとのグループに分かれ、実施している研究会に参加し学びます。
- ・東京都の全幼稚園教員が所属している研究会において、実践研修、講演等を通して学びます。
- ・港区教育委員会が実施する研修会に出席し、区内の他園教員、小・中学校教員と共に学びます。
- ・港区、東京都が実施する職層ごとの研修に出席し、他園、他地域の教員と共に学びます。

7 保護者・地域と共に育てる

① 麻布学校運営協議会

地域の皆様に、幼稚園の取組をお伝えしながら、共に子どもたちの成長を支えます。

② 園便り、学級便り・ドキュメンテーション、ホームページ、Xでの発信

- ・幼稚園の方針や学級の運営、幼児の取組の様子について分かりやすく伝えます。また、Twitter の発信を周知し、家庭・地域からのフォローを増やし、公立幼稚園の教育について知ってもらいます
- ・すぐーるの活用により園だより、学級だよりをはじめとした通知文書でのお知らせにより、幼稚園の教育について保護者の方に周知するとともに緊急災害時の活用にも備えます。

③ コドモン・緊急配信メールの活用

- ・幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
- ・ドキュメンテーションを活用し、園生活や幼児の育ちを分かりやすく伝えていきます。

8 学校評価

① 保護者・地域の方への公開

・幼稚園公開、行事等の公開を行い、園の取組、幼児の姿を見ていただきます。感想や意見をいただき、即時の評価を行い、次年度の実施に生かされるようにします。

② 取組についてアンケートの実施し、学校評価の報告

・学期ごとの評価、遠足や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。

・今年度の取組について、幼児アンケート、保護者アンケート、学校運営協議会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営委員会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に生かします。

学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。